

平成25年度「宇北高等学校評価アンケート」まとめ

1 調査の概要

学校評価の一環として、本校を保護者、生徒、教職員はどうとらえているかを調査した。本年度の重点目標に対する3項目を含め、可能な限り共通の質問を用い、三者の意識の違いを比較した。また昨年の結果との比較も行った。

回答については A:大いにそう思う、B:そう思う、C:あまり思わない、D:全く思わない、の4つの選択肢を用い、保護者対象のものだけ E:わからない、を加えた。

	生徒	保護者	教職員
回答者数	891	835	64
回答率	97.2%	91.1%	100.0%
調査日	平成25年11月14日	平成25年11月11日～15日	平成25年11月25日～29日

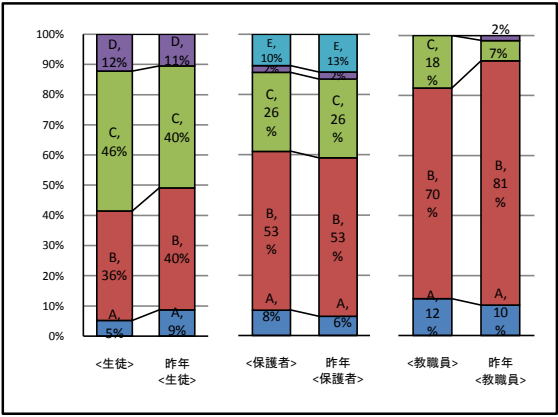
2 質問事項と集計結果

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【重点目標 ①】

学力の伸長

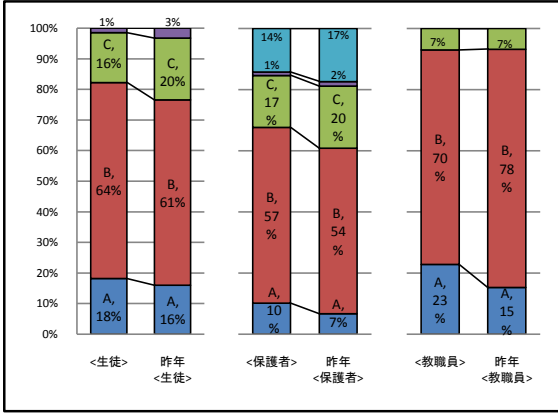
<生徒>	私は、宇北高に入学して学力が向上している。
<保護者>	宇北高の教育は入学した生徒の学力を伸ばしている。
<教職員>	本校の教員は、授業を通して、確実に学力を付けさせている。
学力が向上していることについて「大いにそう思う」「そう思う」と回答した生徒は41%にとどまり昨年の49%から大きく減少した。学年別に見てみると1年生は45%から36%、2年生は42%から35%、3年生は59%から55%に減少した。教職員の意識では82%が肯定的であることは大きな差がある。学力の伸長は、進路の実現に向けての大きな課題である。	



【重点目標 ②】

進路の実現

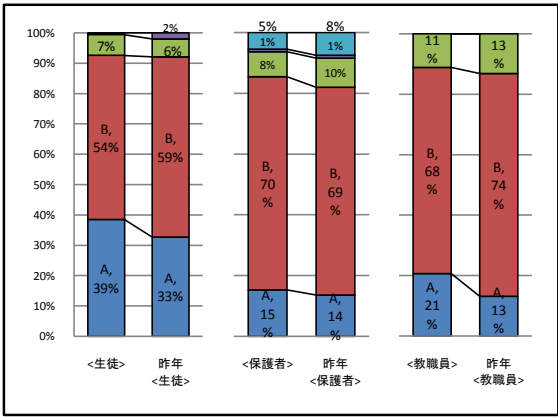
<生徒>	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
<教職員>	本校の教員は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
「大いにそう思う」「そう思う」という肯定的な回答をした生徒が、昨年より5%増加して82%になり、保護者の肯定的な回答も6%増加したが、否定的な回答も生徒・保護者ともにまだ16～17%ある。重点目標①の「学力の伸長」と②の「進路の実現」を一体として、学校全体で取り組む必要がある。	



【重点目標 ③】

ルール・マナーの遵守

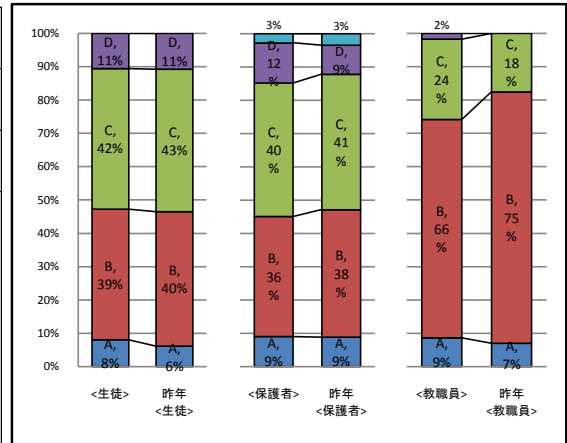
<生徒>	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
<教職員>	本校の教員は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
生徒の93%、保護者の92%が「大いにそう思う」「そう思う」と回答し、本校の取り組みが評価されている。安全安心で落ち着いた学校生活がおくれるように、今後も継続した指導が望まれる。	



【学習指導 ①】

予習復習の徹底

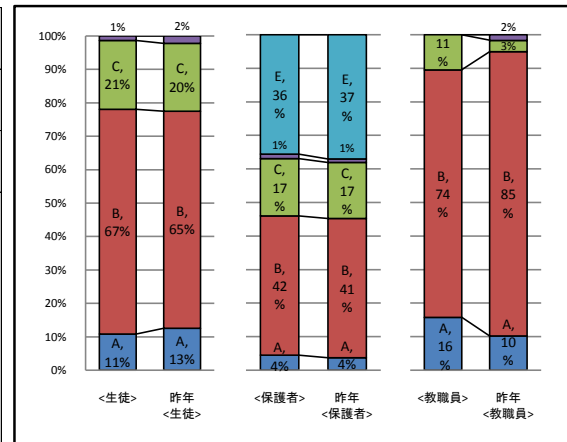
＜生徒＞	私は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
＜保護者＞	私の子供は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
＜教職員＞	本校の教員は、毎日の予習・復習など家庭学習の習慣を身に付けさせている。
生徒と保護者の肯定的な回答は昨年と同様50%未満であり、過半数の生徒は予習・復習をせずに授業に臨んでいることになる。重点目標①の「学力の伸長」の回答結果との関係も深い。また、教職員の意識との差も見られる。	



【学習指導 ②】

わかりやすい授業

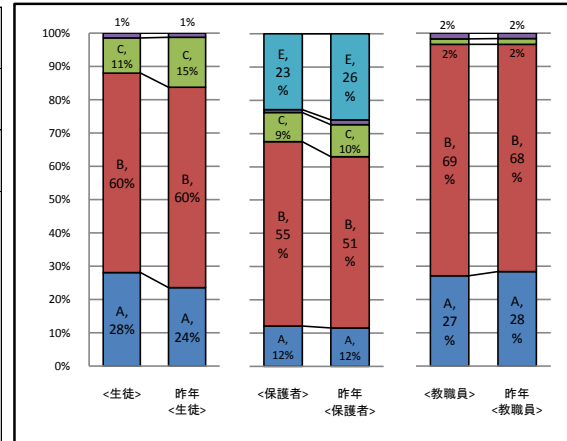
＜生徒＞	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
＜保護者＞	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
＜教職員＞	本校の教員はわかりやすい授業を行っている。
昨年とほぼ同様に生徒の肯定的な回答が約8割である。「わからない」と答えた保護者が36%であり、授業の様子まではあまり保護者に伝わっていないことがわかる。教職員の「大いにそう思う」は若干増加しており、わかる授業の展開へのさらなる努力が必要である。	



【生活指導 ①】

生徒からの相談

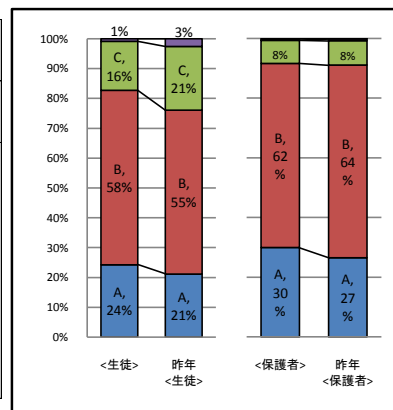
＜生徒＞	宇北高の先生は生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
＜保護者＞	宇北高の先生は、生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
＜教職員＞	本校の教員は生徒からの相談に誠実に対応している。
生徒と保護者の肯定的な回答の割合は、昨年、本年と連続で増加した。今後も生徒一人一人を大切にしたい誠意のある対応を続けていかなければならない。	



【生活指導 ②】

規則の遵守

＜生徒＞	宇北高生は、服装、頭髪など学校の規則を守っている。
＜保護者＞	私は、子供の服装、頭髪、交友関係や遅刻等に常に関心を払っている。
毎年、生徒の肯定的な回答が増加している。また、規則の遵守に対する保護者の意識の高さが表れており、ありがたいことである。このことは重点目標③の「ルール・マナーの遵守」の結果とも一致している。	

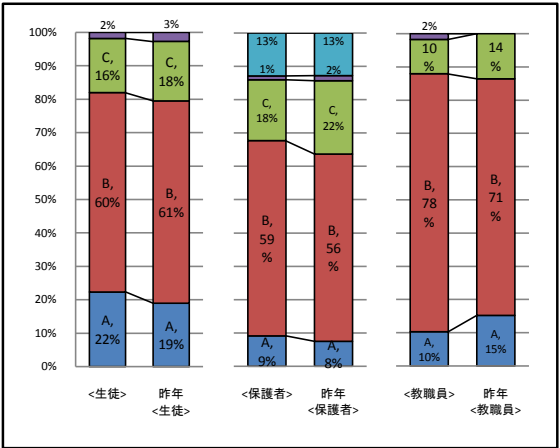


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【進路指導】

進路情報

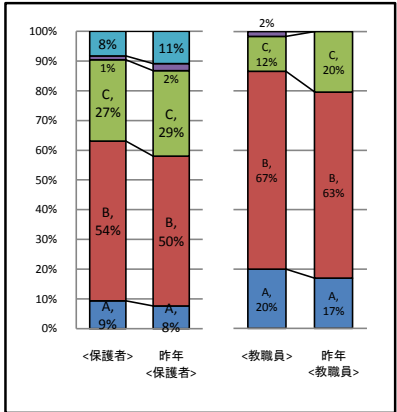
＜生徒＞	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
＜保護者＞	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
＜教職員＞	本校が提供する進路情報は、役に立っている。
生徒・保護者ともに肯定的な回答が増加しているが、約2割は否定的な回答である。保護者会や面談の時だけでなく、いろいろな場面で、生徒や保護者の様々なニーズに応じた、タイムリーで適確な進路情報の提供に努める必要がある。	



【情報発信】

教育方針や情報の伝達

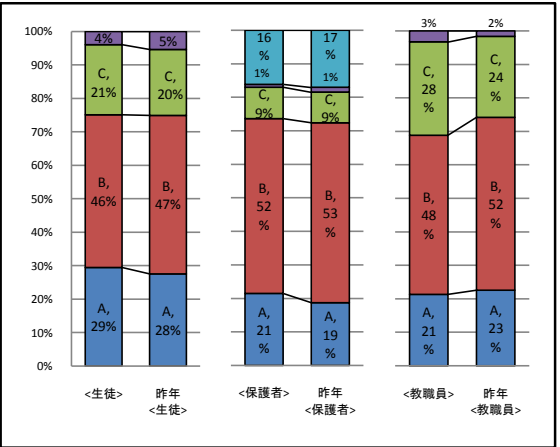
＜保護者＞	宇北高は、教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
＜教職員＞	本校は教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
保護者、教職員ともに肯定的な回答が増加した。各担当への働きかけと、ホームページの更新が早くできるように手続きを変えたことが数字にも表れた。電子メールによる緊急時の連絡等、有効な情報伝達方法をさらに検討する必要がある。	



【国際理解教育】

内容の充実

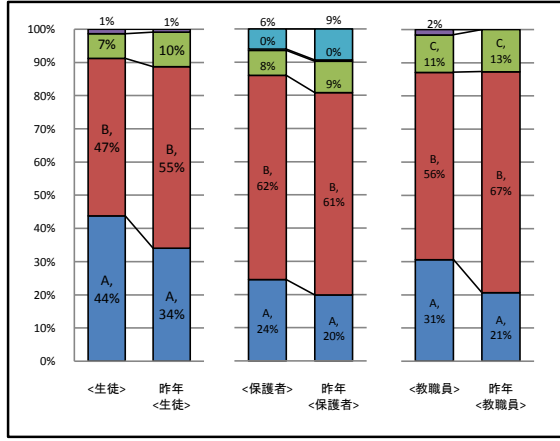
＜生徒＞	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜保護者＞	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜教職員＞	本校の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
一昨年は生徒と保護者の評価が下がったが、昨年から元に戻った。震災の影響で不在になった外国からの長期留学生在が、昨年は1名、今年は2名になり、国際交流に活気が戻ってきたことも理由の一つと考えられる。また、このアンケートの問いに対して、教職員の間では幾分意見が分かれていることがわかる。	



【部活動】

活発さ

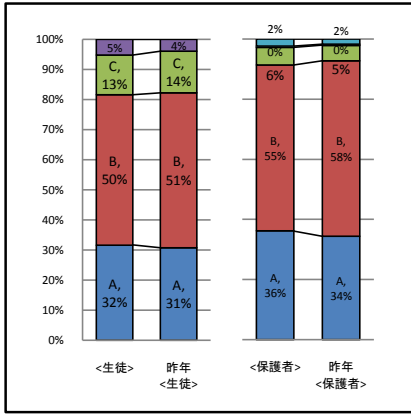
＜生徒＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜保護者＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜教職員＞	本校は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
生徒、保護者、教職員の三者ともに「大いにそう思う」が大きく増加した。今年は、部活動の活躍が目立ったことによる。県内での活躍だけでなく、幅広い分野で関東大会や全国大会に出場した。	



【教育活動全般 ①】 【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

宇北高生としての誇り

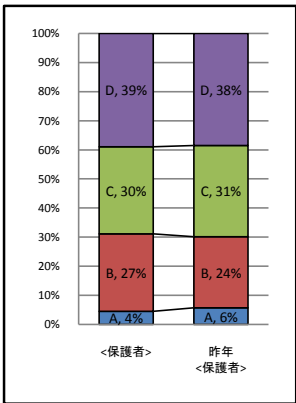
<生徒>	私は、宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
<保護者>	私は、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
昨年と同様に9割の保護者が、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。生徒も昨年と同様に8割が誇りをもっている。	



【教育活動全般 ②】

ホームページ

<保護者>	宇北高のホームページを見ている。
ホームページを見ている割合は昨年とほぼ同じである。各担当者による内容の充実と頻繁な更新が望まれる。	

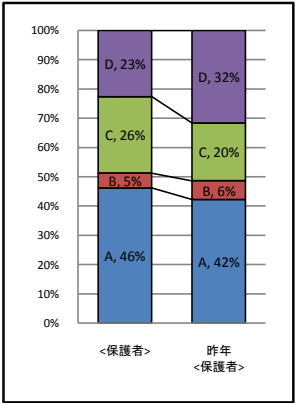


D,見ていない
C,1～2回見たことがある
B,時々見る
A,積極的に見ている

【教育活動全般 ③】

PTA総会・学年保護者会への参加

<保護者>	私はPTA総会や学年保護者会に参加した。(授業参観のみを含む)
昨年に続いて参加した割合が増加した。特に学年保護者会の参加が大きく増加した。今後も、より多くの保護者に参加してもらえよう、実施方法や時期、内容の検討をしていく必要がある。	



D,どちらも不参加
C,学年保護者会のみ参加した
B,PTA総会のみ参加した
A,両方参加した

3 改善に向けた今後の取り組み

本アンケートの結果を踏まえて各部・各学年の自己評価を行う。また、学校評議員等の学校関係者からの評価もいただき、本年度重点目標の達成状況や達成に向けた取り組みの状況を把握整理したうえで、来年度に向けた改善方策の検討を行い、来年度の重点目標を設定する。